

さんぽみち



連絡先

鶴の木特別出張所

☎ 3750-4241

発行 わがまち大田鶴の木地区推進委員会

青少年を考える

東調布第三小学校長 向井正昭

テレビや新聞、週刊誌などで広められる青少年についての情報は、きわめて特異な事例であること、解釈によつては昔から続いている少しも変わつたことと考えられないことが多くあります。それがセンセーショナルに取り上げられ、さも日本がどうかなくなってしまふかのように騒がれます。しかし、目を向けるべきなのは、私たち自身の手の届く、直接触れ合える、顔を合わせている子どもたち、青年たちです。

今、時代を同じくし、直接に触れ合う子どもたち若者たちは、私からは、少しも悪くなつていないと思えません。むしろ、視野が広まつているとさえ思えます。無関心だと決めつけ、悪いことを見て見ぬふりをする批判は、これが大人の姿そのものではないでしょうか。教えるべきことと任せるべきことの区別をはっきりさせることは難しいことですが、大事なことです。その意味で、大森第七中学校の教育実践を尊敬の目で見させてもらっています。

教育は、その子の今の姿を認めるところから始まります。大森七中発行の「たより No.16」を引用します。「ノーチャイムデーの実施」が二月九日に行われました。「チャイムなしで一日の学校生活を送る」の実践を、生徒会が中心になり、各学級や各委員会を取り組みを明確にして実施しました。見事にノーチャイムで充実した一日を送ることができました。次回もよりよい取り組みをしたい、と前向きな反省をしました。

国際化の時代を迎えて、自律型の生活や学習態度の育成がよくいわれますが、身近なところで生徒にいろいろなことに取り組みさせるものが成果を生んでいくことになるものと思います。」



このように、子どもひとりひとりに、自律性と社会性を育てる可能性、場を見つけてさせ、作らせることが大切です。第三小学校でも同じ考え方で進めています。勉強を始めるときに自分の考えを持つ、疑問を解決しようとする、どうしたらよいかを自分の持つていた力を出しきって見つけるなどの活動を増やすようにして来しました。



【「青少年をめぐる環境浄化強調週間」に行われたティッシュ配布の様子】

こうした実践に取り組めるのも一つには、地域社会に落ち着きがあるからです。子どもたち、保護者の方々、家族の皆様、そして卒業生やそのご家族。さらに、地域社会のために尽くしてくださる方々。学校を地域社会の中の一つの存在、ひとが作っている小さな内なる社会として抱えていってくださるから、学校もよい働きをしていけるのだと思っています。将来を任せる人間、より良い社会をつくっていく人間に対して、温かい目で、厳しく指導していかなければならぬと思います。「開かれた学校」と言います。地域社会の中での学校のあり方が、青少年の健やかな成長に大きな影響を及ぼします。皆様のお力添えをよろしく願います。



千鳥小学校四十周年
千鳥二丁目 細田正人
此の度、喜ばしい千鳥小学校四十周年記念式典に参加して、まず私が感激した事は、多分五・六年生と思いますが、一人ずつ起立して喜びの気持ちを立派な祝福の言葉にまとめて発表された事に私は感銘しました。
出来る事なら、この様な立派な式典にもっと大勢の先生方と卒業生の皆様を御招待して、喜びを共に歓談したいと思いました。
私事ですが、偶然にも私の長男が四十歳を迎え記念すべき四十周年であったとは思ひもよらず年月の流れに驚きを感じました。
今後千鳥小学校の益々の発展の為、隣接町会もこぞって協力し立派な小学校になられる様にお祈りしております。

この「さんぽみち」は、再生紙を使用しています。

わがまち有名人

献血に賛同者を注ぐ人

鵜の木二丁目在住で呉服店の若旦那、中山眞弘さんがその人。献血履歴を尋ねると昭和三十九年にかかのぼる。鮫州で運転免許の試験に合格して帰る際、玄関先で献血をしたのが契機だそう。運転免許を持って責任を感じたと言うか、万一の交通事故に備えて一人一人分の血液を献血しようと思いましたが、私は子供の頃から注射が嫌いで嫌いで、今でも嫌いです。不思議と採血時の注射針だけは全く苦にならないのですよ。と中山氏は語ってくれた。

「二九年間、年一回二〇〇ccとして五、八〇〇cc、四〇〇cc採血を加算して約九、〇〇〇cc、一升瓶に換算すると約五本分!?」
「一人一人分の血液の量はどの位でしょうか?」と質問された。
「この人まだ献血を続けるようだ。こんなことを聞いてどうするんですか?」
「さんぼみちに掲載します。やめて下さい。私より永く献血している方がいますよ。恥ずかしいですよ」と中山氏は言う。
なんとも爽やかな熱血好青年だ。ちなみに体重の三分の一がその人の血液の重さ。体重六〇kgの人の血液の量は約四、三四五ccとか?何と二人分を越えているではないか。脱帽。

(K・K)

今昔 うつりかわり

嶺町小学校は、昭和二十三年五月に多摩川の清流にほど近いこの地に創立され、当時児童数七八九名、六学級、先生十七名ときく。児童数が多い時は、昭和三十一年

年の一六九八名、先生四十名であったという。現在は児童五〇〇名、先生二十三名、時の流れを感じずにはいられない。
親子三代の卒業生もそろそろであらう。

(E・C)



↑昭和33年頃の嶺町小
創立20周年記念集「嶺町」より

現在の嶺町小↓



リレーエッセイ

年はとりたくない

南久が原二丁目 平川 漢夫

もうすぐ七十に手がとどく年になり、いつまでも若いつもりでいるが年には勝てない。
つい先日のこと、いつもより混んでいる電車に乗り、つり革につかまり立っておりますと、「どうぞ」と若い娘さんが立ち上がり席を譲ってくれました。「すぐ降りますから」と申し上げたが、折角

の善意を有り難く席を譲ってもらいました。若い人から見ればお年寄り、いささか寂しく、年はとりたくないといつくづく感じる今日この頃です。いつまでも若く元気になりたいものです。

次回は、南久が原二丁目の
中澤四郎さんです。

イラストマップ

光明寺の道標
嘉永四年(1851年)に造立された

千鳥町
14.5年 千鳥町商會 街路灯完成
60周年記念 (昭和8年に設立)

わかばの家 地下駐輪場

千鳥小 倉立S.27年10月
14.5年2月に40周年記念式典

武蔵新田
新田神社
祭神は 新田義興 (1331-1318)

御嶽神社 千鳥分社

朝鮮第六 初中級校

千鳥小 倉立S.27年10月
14.5年2月に40周年記念式典

平賀源内「神靈矢口渡」
(明和7年1770年)作に登場する
船頭が 頗兵衛。
新田義興の乗った船の底に穴の仕掛けをした。
その後 前非を悔い、この地蔵を建立したとい

短歌

南久が原二丁目 板倉 正子

水ぬるみ根雪とけゆき岩かげの
露の曇みな萌えいづる見ゆ
児らたちの宝物持ち集まれる
露路は今日からビル建ち始む
牛乳パックを再生せしとう和紙求め
絵筆持つなり老いのひととき

俳句

鵜の木二丁目 千葉原 米子

光陰の流れさだかやもの芽萌ゆ
絶筆の五字の連綿春惜しむ
熊谷恒子記念館
矮鶏遊ぶ錦木紅葉彩極む
東京港野鳥公園

編集後記

青少年問題について東調布第三小学校の向井校長先生よりご意見を伺いました。第五号の紙面より回覧から全家庭へ配布出来るようになりました。よろこばしいことです。皆様に発行が待ちこがれる「さんぼみち」にスタッフ一同取り組んで参ります。皆様の身近なご意見お寄せ下さい。

(S・I)

訃報

「さんぼみち」編集委員の神谷勝彦氏の突然の訃報に驚き、名編集委員を失い誠に残念でございます。こゝに心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集委員一同